

## 透析と新型コロナウイルスの実情

竜崎 崇和(りゅうざき むねかず)  
東京都済生会中央病院 腎臓内科

2019年12月に中国武漢市から発生した新型コロナウイルス(SARSCoV2)が関連している感染症(COVID-19)は世界中に広がり、世界保健機関(WHO)は2020年3月11日パンデミック宣言を発した。日本国内では、1月15日に武漢市に渡航歴のある肺炎患者から SARSCoV2が検出され、以降第1,2波に続き、2021年2月現在第3波が徐々に感染患者数の減少が観られている。

透析患者は感染しやすいのか?この疑問に対して、2月11日時点での一般人口累計感染者数は412,010人であり、日本の総人口12,693万人で除すると感染率は0.325%と算出される。一方、透析患者の2月11日現在の日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会への感染報告数は1,145人であり、2019年末の全透析患者数344,640人で除すると、0.332%となり、一般人口の感染率とほぼ変わらない。腹膜透析患者では2月11日現在19人の報告があるにすぎず、感染率は全腹膜透析患者を約1万人とすると0.19%となり、一般人口や血液透析と比較し、感染率が低いことが分かる。

透析患者は重症化リスクが高いのか?この疑問に対しては、合同委員会への報告では死亡者数は139人。致死率は12.1%で、転帰が判明している感染者数を分母にすると、致死率は28.5%となり、一般人口の致死率1.67%(2021年2月13日現在死亡者数6,931人/感染者数414,672人)を大きく上回る。

地域別感染割合は一般人口も透析患者も3割弱は東京である。2月13日現在東京累積感染者数106,134人/414,672=25.6%。感染透析患者東京339人/全国1,145人=29.6%であり、人口密度が高い東京で感染率が高い。

2020年12月25日までの一般人口累積感染者数179,558人が6週間後の2月4日には354,190人となり、透析患者も累計522人の報告であったが、2月4日には1,047人となった。一般人と同様に透析患者も12月25日までの累積数が6週間で倍増していることが分かり、第3波がいかに高かったかが分かる。1月中は透析施設も孤発症例が多かったが、2月に入り施設クラスターが多くなり増加に歯止めがかからなくなっている。4月の時点までさらに解析を進めて討論したい。